

平成25年度 みどり清朋高等学校 第2回学校協議会 報告

日 時 平成25年10月9日(水) 午後2時～4時
場 所 本校校長室
出 席 者 三坂会長、中尾委員、定井委員、福井委員、高田委員、坂東委員、
古川委員
久木元校長、小河原教頭、島事務長、中村首席、乗田首席、
山本生徒指導部長、城戸総務企画部長

1 会長挨拶 (三坂会長)

本日はお忙しい中、委員の方々のご出席をたまり、実りの多い協議会にさせていただくようお願いしたい。

2 校長挨拶

今年度の学校経営計画の最重点目標は、授業力の向上である。ただ予定していた ICT 機器の導入が遅れている。府による一括購入のため、購入時期がずれ込んでいることが原因だが、11月末には導入の見込みであり、3学期以降の授業改善の柱にしていきたい。加えて本校を取り巻く種々の状況につきご報告させてもらうので、委員の方々の忌憚のないご意見を頂戴し、学校経営の参考にさせていただきたい。

3 協 議

(1) 授業アンケート実施後の検証について

資料に従って、久木元校長から以下の報告があった。

(ア) 「授業アンケート」について

- ・「学校経営計画及び学校評価」についての説明と付加事項、評価指標の確認。
- ・授業力向上の取り組みの説明

(イ) 授業観察シートに基づく教員相互の授業見学について

- ・第1回の教員相互の授業見学を6月10日から28日まで実施。
- ・それを受けて、授業力向上を目的とした第1回授業改善アンケートを6月27日に行った。
- ・アンケート結果の個票を各教員に返却し、各々がセルフチェックし、教科会議、職員会議で共有した。
- ・今後の予定として、第2回目の教員相互の授業見学を10月25日から11月22日まで実施し、その間、教育センターの主催するパッケージ研修の公開授業等も含みながら、授業力向上に向けて取り組む。
- ・第2回目の授業改善アンケートは11月28日と12月9日に学年ごとで行う。

(ウ) 授業改善アンケート項目についての説明

- ・授業満足度は、教科による違いや学年による違いがあるが、特に座学と実技教科との違いは顕著である。実技教科は座学よりもスコアが高い。
- ・座学の授業満足度は、今年度目標の70%に対して64.5%となっており、5ポイントほど低い。昨年度末とほぼ同じ数字になっている。
- ・自由記述を内容別にまとめてみたが、教員の年齢や担任の有無などによって左右される傾向も見られる。単に満足度が高いといっても、生徒に都合の良いような、いわゆる「楽な授業」である可能性もあり、生徒を厳しく指導することでスコアが低くなることも考えられ、今後さらに分析していく必要がある。

(エ) 授業アンケート返却面談（教員）まとめ

- ・面談を通じて、何人かの教員から生徒の課題や授業者である教員の課題、また自由選択科目を選ぶ際の本校独自のカリキュラム上の課題が指摘された。これについても検討していくことが重要である。さらに実技教科もこの数字に満足することなく、一層のレベルアップを図る必要がある。
- ・教員評価につながる部分もあるが、日々の教員の授業も同時に見ながら評価することが大事だ。アンケート自体の課題や文言の改善など、見直すべき部分も見えてきた。

【主な質疑】

三坂会長：昔は若い教員が自発的に集まり見学し批判もし合っていた。今は難しい部分もあると思うが、現行制度の課題等も含めご意見を伺いたい。

高田委員：アンケートという形で生徒が授業評価をしたが、それに対して生徒の意識は変わってきたか。あるいは教員の思いが伝わり、生徒の顔に変化が表れたか。

久木元校長：生徒にとって負担がかかるアンケートである。昨年度の授業改善アンケートでは、第1回目よりも第2回目のスコアがアップした。教員の取り組み姿勢に生徒が反応したものと思う。今年も各教員がどのように感じ取り、改善につなげるかが重要だ。今後授業改善が見られなかったら、むしろ生徒の意識は悪くなりかねない。

高田委員：入試制度が変わったが、前期受験の生徒と後期受験の生徒では何か違いがあるか。

久木元校長：前期受験者の中に、授業に対する取り組みがやや希薄な生徒が見られるように思う。

坂東委員：メリットとデメリットがあるが、各教員が目標を設定し前向きに努力している点が良い。本校の評価が府下全域の評価と対比させるような方向に今後進むのか。

久木元校長：学区が撤廃される中で、比較が無いとも限らない。

坂東委員：民間でも、職員評価に反映されることに関する議論が行われている。このアンケート結果が人事評価につながっていくのか。

久木元校長：今年度から、授業力の項目で人事評価につながることとなった。しかしこれが全てではないことも教員に伝えている。アンケート結果と、実際の授業とが必ずし

も一致していないケースもある。教員評価はトータルに考えたい。

古川委員：教え方や好き嫌いでの評価になっていないか。教員として、人間としての多面的な魅力や尊敬できるかなど、授業以外の要素も評価して欲しい。このアンケートには、そういった部分が反映されていないのではないか。

三坂会長：先生へのあこがれや尊敬という部分は大切だと思う。

定井委員：中学校でも昨年度から取り組んでいるが、昨年は生徒と保護者を対象に行った。授業の良い教員は評価が高いが、人気投票のような側面もある。また、生徒の中にはいい加減に記入するものもいて、全体の2割から3割にのぼっている。厳しくて融通がきかない人はスコアが低い反面、生徒には厳しいが、生徒の意見を取り入れるような教員のスコアは高い。また初任者は低い傾向が見られるが、こうしたことが全てではない。あくまでも「学びの育成」の視点からこのようなアンケートを取り入れているのであって、学力向上の指針の一つと考えている。

福井委員：小学校は保護者アンケートを実施している。担任は保護者と深い関係があるが、担任外の教員はそうでもないので無責任には評価できないとの声もある。アンケートはあくまでも、良い授業を作り上げるための指針と受け止めている。全国標準学力テストでの学力や、家庭状況、自己肯定感等80項目に達する学力状況調査などの結果も大いに参考にしている。携帯問題では、小学校では子どもが勝手に携帯を扱い、その結果睡眠不足が生じるなどの問題が提起されている。そうしたことの取り組みの一環で、本校では全校テーマを決めて課題の克服を目指している。今年は「書く力」を一つのテーマとして、全員でこうした問題を追求していく方法を取っている。みどり清朋高校の「授業観察シート」は参考にさせてもらいたい。

高田委員：やはり親の姿勢が子どもに影響を与えているか。

福井委員：大きいと思う。

中尾委員：アンケートの調査分析の中から、教員や子どもの方の高まりにつなげていく必要がある。各授業が多様な中、一律に見ていくことの限界や危険性もある。特に、スコアが高くなく、また低くもないいわゆる「中間層」の教員を一律に見ていくことは難しい。校長の評価、生徒の評価、教員相互の評価をバランス良く見ていくことが大切だ。授業満足度が高ければ高いほど良いのかということもある。むしろこの結果をどう生徒に返していくのか、集会や文書等で返していく方法もある。個々の教員が生徒に対して発信するメッセージがあれば良いと思う。また生徒が努力すべき目標を示すことが出来れば、お互い良いキャッチボールになる。

久木元校長：アンケート問題の1番や2番の項目は、生徒自身の取り組みを問う内容だ。

三坂会長：質問項目の中にある予習・復習の大切さについては、家庭の問題等もあろう。また質問3の「授業が自分にとって適切かどうか」という内容は疑問に感じる。自分が尺度なのではなくて、あるべき姿を追求させることが大事だ。そのための工夫や改善の検討が必要なのではないか。自由選択科目に見られるように、不本意選択の授業

もあろうが、どの教科も大切なのだということを生徒に言って欲しい。やはり基本は教員が生徒に向かう姿勢にある。起立礼や、チャイムと同時に授業を始めることはその大前提であるし、また教室の清掃も当然大切にしなければいけない。

中村首席：授業中に寝ている生徒が教員を評価している。まず生徒自身の姿勢を正す必要を感じる。

乗田首席：先生の持ち味や尊敬される教員などといった部分が反映される工夫も欲しい。

山本生徒指導部長：かつてと異なり、教員同士が情報交換する機会が近年は乏しい。もっと、互いに情報交換する努力が必要だ。

城戸総務企画部長：学習環境が悪ければ生徒は伸びない。人の目を見て話さない、礼をしない教員に対して、生徒たちはどう思うか。

三坂会長：私の勤務する短大でも、起立・礼から始めている。教育は基本的なところが大切だ。

(2) 大阪府立高校をめぐる状況について

資料に従って、久木元校長より以下の説明があった。

- ・府立高校の再編整備計画について。
- ・再編統合の方向性について、本校は原則として普通科専門コース設置校に移行する可能性がある。
- ・第1回の再編整備案について
- ・入学者選抜における採点方法の改善について

【主な質疑】

定井委員：募集停止の学校は、人が集まらない学校か。

久木元校長：まだ何とも言える状況にはない。

定井委員：採点ミスが多かった原因は何か。

久木元校長：ある府立高校の採点ミスの発覚で、再度綿密にチェックした結果そうだった。前後期の2度の入試も負担だ。

山本生徒指導部長：前期後期制入試と学校の行事がいっしょになり、教員や在校生の負担が過重になったこともあげられる。

(3) 平成25年度・現在までの本校の教育活動について

資料に従って、久木元校長から以下の説明があった。

- ・本年の地域連携の取り組みについて
- ・3年生の特別進学指導について
- ・現在の就職希望者の内定状況について
- ・遅刻やネットに関する生徒指導状況について
- ・ミドルや若手教員の人材育成について

(4) 意見交換

各委員から自由に意見の交換があった。

【主な質疑】

久木元校長：携帯やスマートフォンの問題が発生しているが、中学校ではどうか。

定井委員：中学校では携帯の持ち込みは禁止しているが、所持率は6割にのぼる。持ち込んだ場合、預かった後で保護者に返却している。

福井委員：小学校でも5割以上持っている。親が持たすことが多いが、児童に自己管理させるのは無理である。

三坂会長：ネット等による誹謗や中傷のトラブルはかつてからあったが、今はどうか。

定井委員：ネットで他校生とつながり泊まりに來たり、ラインを利用して中学校同士のトラブルに至るケースもある。

嶋事務長：各委員のお話の中の生徒の「自己肯定感」について気になったが。

定井委員：中学校では、こうした自己肯定感が低い生徒が多いので、行事の際などに積極的に褒めることをしている。

高田委員：就職する際にも、きちんと挨拶できる習慣が身に付いている人は伸びる。付け焼刃ではだめだ。こうした点についてもきちんと指導して欲しい。

三坂会長：挨拶等でも地域性がある。様々な課題を生徒に与えるよりも、「挨拶」「清掃」等課題を絞って指導するのも良いのではないか。

以上で質疑は終わり、散会した。